



2023年1月15日

第690号

1部10円(組合員は組合費に含む)  
郵便振替00960-7-111274

Tel (06)4793-0633 Fax (06)4793-0644 E-mail: info@ewaosaka.org http://www.ewaosaka.org

# 新年挨拶

年末、石垣島と西表島を旅してきました。亜熱帯原生林と海中生物の世界、戦時マラリアなどの戦跡、建設中の陸上自衛隊駐屯地。すべてが現実で、私たちにつながる世界の一部。退職して時間ができた分、自分が生きるこの世界をもっと知りたくなってきました。

## 2022年を振り返って

コロナ禍も3年目となり、社会も経済も混迷を抜け出せずにいます。その上、2月からのロシアのウクライナ侵略戦争とそれに乗じた日本の「軍拡増税」路線への動き、7月の安倍元首相の暗殺とその後の「国葬」強行など、国際協調主義と立憲主義に対して底が抜けたような情勢にため息が出ます。

組合についていえば、12月

の組合ニュースで報じたように、大阪府労働委員会は、ウィザス支部に対する不当労働行為を認定する勝利命令をだしたもの、一方では、西山短大支部に対する組合員の雇止め・不誠実団交の申立ては全面棄却し、判断が分かれました。職場で虐げられている教職員からの労働相談がここ数年増えています。パワハラによって休職に追い込まれた教職員の新規組合加入も複数の職場がありました。余裕のない職場の中で、労働者の切り捨てを許さないために、組合の存在価値はますます高まっています。

コロナ禍で2年間中断していたEWAセミナーも、8月には「京都ウトロ・フィールドワーク」、12月には今号掲載のとおり「学校における性の問題を考える」を実施し、直



西表島ピナイサーラの滝近くのジャングル

面する社会課題や教育内容に対する組合員の学習にも取り組むことができました。

## 2023年の展望

大阪府の講師雇用継続団交拒否事件については、2020年度からの会計年度任用職員制度の導入で団交は必要ないという大阪府の欺瞞に惑わされることなく、今後も団交を要求し続けるとともに府労委闘争をすすめます。教職員不足で苦悩している学校現場の要請と、経験のある組合員の継続雇用の要求とは、本来対立するものではありません。組合との連携を維持継続しようとする市町村教育委員会と、

制度にのみこだわり現実を見ようとしている大阪府教育委員会との差異を乗り越えるための、具体的な動きを創り出す必要性を感じています。

物価高と実質賃金の低下による生活苦を解決するためには、何よりも労働者の雇用継続と労働条件の改善が必要です。そして、それを実現するためには、組合員と組合が主体となって団体交渉で要求の実現を諂ひ、ストライキ闘争も含めたたたかいを構築していくことが欠かせません。

私たちの組合は、決して大きくはありませんが、組合員の皆さんのが、それぞれの職場・地域で堂々とたたかえる組合であると確信しています。今年も、様々なたたかいの場や学びの場で皆さんに会えることを期待しています。友誼組合や市民団体との連帯もさらにすすめていき、「教育合同ここにあり！」という姿勢を示していきましょう。

増田俊道(執行委員長)

# 大阪市のインクルーシブ教育のゆくえは?

特別支援学級を巡って文科省は全国の教育委員会に4月27日付で、特別支援学級に在籍する児童・生徒は週の授業時数の半分以上を目安に特別支援学級で授業を行うことと通知しました。文科省の調査では特別支援学級に在籍しながら授業時数の半分以上を通常学級で受けている児童・生徒が過半数に達していることが調査で分かったためです。これを受け大阪市教委は特別支援学級在籍の児童・生徒に自立活動の時間がどれだけ確保されているかの調査になりました。大阪市はこれ

まで障がいのある児童・生徒と障がいのない通常学級の児童・生徒との交流、いわゆるインクルーシブ教育を推進してきた経緯があり今回の調査はその流れに逆行することになります。

組合は大阪市教委に今回の通知をどう受け止めているのか聞く場を持ちました。市教委は多様な学びを変えるつもりはなく、一人ひとりの生活のニーズに合った自立活動がされているのかを調査したのであり、これまでとは変わらずに通級学級についても拡充していきたいとの返答でした。

組合としては現場で働く教員の働き方にもかかわってくることであり、また保護者にとっても子どもの特性に合わせた柔軟な学習ができなくなるのではと危惧しています。組合は障がい者には平等に教育を受ける権利があり、教育支援員の確保や専門性のある教員配置、通常学級とのダブルカウントをこれからも要求していきます。

国連の障がい者権利委員会は昨年の9月、障がいのある子どもを分離する特別支援教育の中止を要請したうえで、文科省の通知に関して撤回す

るように日本政府に勧告しました。

山口昌孝(書記次長)

## 当面の日程

- 1月22日(日) エルおおさか5F  
14:00~ 視聴覚室  
ZAZA連続講座 丁章さん講演会  
「私が詩人になってからのこと」
- 2月11日(土) 港区民センター  
13:00 開場 13:30 開演  
酒井隆史さん 講演会  
天皇制アリズムと「略奪」資本主義  
「日の君」強制反対大阪ネット
- 2月16日(木) エルおおさか  
おおさかエコネットワーク 研修室2  
18:30~ 23春闘総決起集会

# EWAセミナー第2弾 学校における性の問題を考えた

今年度の定期大会で性差別の取り組みへの修正案が出されたことを受け、性に関する問題をテーマに12月26日、セミナーが開催されました。組合員同士で職場、学校での性に関する問題意識をそれぞれ語り合うという形式で行い、主に以下のようなテーマで話し合いました。

## 学校における制服問題

男子は詰襟、女子はセーラー服といったステレオタイプは少数になり、今や女子もスラックスを選択できるようになりますが、果たしてそれが性の多様性を認めることへの答えなのか？そもそも制

服が存在することで自己決定を認めないことが問題であり、制服のジェンダーレス化で解決する問題ではないという意見、一方、制服は貧富の格差を可視化しないために必要とされているという意見もありました。また、大阪市内で新たにできる大規模小学校の分校では脱制服の流れが進んでいるとのことです。制服と性の問題は根深いところで繋がっていると考えられます。

## 性差別の解消には

男女の賃金格差が比較的小ないとされる公務員の中にも、やはり賃金格差は存在します。その大きな原因は、女性の身

体的区別による出産及び育児による昇給等の抑制です。今年の6月には「女性活躍推進法」改正により、男女の賃金格差が公表されますが、おそらくこれらの理由が示されるでしょう。労働組合としては、出産・育児が一方の性にだけ不利益となる制度の是正を求めていかなければならぬと意見は一致しました。

## 性自認に悩む生徒たちと

LGBTQという言葉が浸透する中、学校現場においても身体的性別と性自認の違いに悩むあるいは表明する生徒たちも可視化されてきました。対応すべき問題の一つとして、ト

イレ問題があげられました。トイレにおける性犯罪の発生率を考えると、ジェンダーレストイレの設置については慎重であるべきという意見、現在取り得る対応として多目的トイレの使用を勧めたなどの事例報告がありました。また、男性用トイレはプライバシーが守れるようには設計されておらず、このことについても問題があるという意見もありました。

性自認の問題については、思春期ゆえの不安定さも絡み、慎重な対応が必要など、今後も継続した学習の必要性が認識されました。

酒井さとえ（書記長）

# 2023旗開き！

コロナ禍患者の全数把握簡略化で、感染の全容が見えにくくなってしまいましたが、第8波の到来は間違いないようです。今年も大事を取って会食抜きの支部代での旗開きとさせていただきました。執行委員長のあいさつに始まり、経過報告、係争報告、ALTの団交報告と続き、臨時職員雇用継続のたたかいで、話を進めました。闘争本部を設置し、闘争委員である支部代の皆さんと方針、具体的な行動日程を決めました。

【行動日程は以下の通り】  
 第1回闘争委員会(決起集会)  
 1/28(土)14:00~組合事務所  
 第2回闘争委員会  
 2/13(土)18:30~府教委前  
 第3回闘争委員会  
 3/24(金)15:00~各教委前

交渉先を府教委から校長にシフトしてはどうかと議論になりました。実質的なご意見であることは否めませんが、個々の交渉には応じるのに雇用主である府教委が組合の交渉に応じないことへの抗議は必要で有り、校長は組合の交渉相手には至っていないと判断し、今年も府教委への申し入れを行うことになりました。各教委の講師への意向調査は、早まる傾向があり、吹田支部は12月上旬に各市教委への申し入れを開始、大阪市では12月にヒアリングがあった様子です。支部交流では、しつくりいかない働き方改革、戻りきらない留学生等が話題になっていました。来年は、ワイワイと旗開きが出来ますように。

高田晴美(副執行委員長)

EWA  
被害者救済新法の成立も、自民党安倍派に重心を置く政治家と(旧)統一教会との癒着の全貌は未だに不明▼細田現衆院議長と安倍元首相という二権の長が、在任中ではないが、その直前か直後に

旧統一教会系団体に出席して、又はビデオによる挨拶▼安倍氏の祖父岸元首相から、統一教会との癒着は日本の統治機構に深く浸透していた▼山上容疑者の暗殺という行為は是認できないが、その標的選択は文字通り的確だったと言わざるを得ない。

## 文化おちこち (252) 違ったまんまで一緒に生きよう

(3)

### 【前回の答え】

タイ語で「サワディ」と読みます。意味は「こんにちは」です。フィリピンやベトナムのようにアルファベットを使う言語でしたら読みが推測できますし、ネットを使って翻訳も容易です。しかしその言語特有の文字の解読は難しいものです。そして日本生まれのタイやネパールルーツの子は継承語（文字）の習得が困難です。

**【こども教室創設のきっかけ】**  
 小学校の入学式が終わった後「道具箱には何がいりますか？」と外国ルーツの母親が聞きました。手には必要そうな学用品がいっぱいでした。校長は一つひとつ指をさして教えました。学校からの案内プリントを見ただけでは不安だったのでしょう。こどもに忘れ物をさせたくないという切実な気持ちの表れです。

その数日後、その母親は一家心中をはかり入学したばかりの

【PS 映画紹介】  
 外国ルーツの人々を描いた映画が立て続けに上映されています。「ファミリア」（監）成島出（出）役所広司、吉沢亮、アリマライ果@大阪SC、「世界は僕らに気づかない」（監）飯塚花笑（出）堀家一希、ガウ@第七藝術劇場、「終末の探偵」（監）井川広太郎（出）北村有起哉、武イリヤ@シネリーブル梅田）（Macheck）

